学校番号	１１１

平成 31 年度　音楽科

教科	音楽	科目	ソルフェージュ	単位数	2	年次	2
使用教科書							
副教材等	ジュニアクラスの楽典問題集						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

楽典の知識を身につけ、楽譜に書いている情報や作曲者の解釈を読み取る学習をします。
音楽を通じて心を育み、感性豊かになることを願っています。

2　学習の到達目標

コールユーブンゲンで正確に歌う練習をする
聴音に取り組み、耳からの音程把握にも取り組む
ドイツ語音名などと共に、調の把握、音程など基礎的な楽典を学ぶ

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている
評価方法	観察	観察	演奏の聴取	観察 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	オリエンテーション	オリエンテーション ソルフェージュとは何か	○				a: 音楽の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている	観察
	音程の確認	五線譜を用いて実際に音をかく 音程を把握するために、楽典上の音程を学ぶ	○	○			a:譜面をつくる学習に主体的に取り組もうとしている b: 楽典の理解を深め、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている	観察 ワークシート
	調の認識・聴音・歌唱	調の存在を明確にし、全種類教える 簡単な８小節程度の曲を正確に歌う リズム聴音から始めて、それに音をつけていく	○	○	○		a: 歌う喜びを味わい、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受している c: 正確なリズムで歌唱の技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取
	専攻実技	楽器と声楽のテスト	○	○	○		a:歌う喜びを味わい、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受しながら、どのように歌うか、表現意図をもっている。 c:表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取 ワークシート
	聴音・唱歌・作曲	聴音をもとにして、作曲に取り組む。 自らが求めている音楽を実際に楽譜にする	○	○			a:作曲に主体的に取り組もうとしている b: 楽典の理解を深め、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている	観察 ワークシート

二学期	楽典の復習	音程 調・調号	○	○			a:譜面をつくる学習に主体的に取り組もうとしている b: 楽典の理解を深め、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている	観察 ワークシート
	新曲視唱　コンコーネ	４小節程度の簡単な旋律から練習。 ３度跳躍までの曲での旋律を選択	○	○	○		a:音程正しく歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b:旋律、リズム、速度など音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し、曲種に応じた発声の特徴を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 c:表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取
	作曲	自ら求めている音楽を実際に楽譜にする	○	○	○		a: 自ら音楽をつくり、作曲に主体的に取り組もうとしている b: 楽典の理解を深め、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている c:表現したいことを伝えるための楽典を身に付けている。	観察 ワークシート
三学期	楽典・実技試験	和音、長音階、短音階、移調、総合問題 専攻した楽器または声楽のテスト	○	○	○		a:譜面をつくる学習に主体的に取り組もうとしている b: 楽典の理解を深め、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。 楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して音楽表現を工夫し，どのように演奏するか表現意図をもっている。 c:楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して，音楽表現をするために必要な器楽の技能を身につけ，創造的に表している	観察 演奏の聴取 ワークシート

	和楽器	箏アンサンブル	○	○	○		a:箏の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりに関心をもち，それらを生かしてアンサンブルする学習に主体的に取り組もうとしている b:箏の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して音楽表現を工夫し，どのように演奏するか表現意図をもっている。 c:箏の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して，音楽表現をするために必要な器楽の技能を身につけ，創造的に表している	観察 演奏の聴取

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。